



今回陸軍現役將校配屬令施行十五周年記念に當り、特に學生々徒のみ畏くも御親閥を賜るこゝ、相成り、晴れの御親閥式は五月廿二日宮城前廣場に於て行はせらるゝ由仰せ出されたのであります。この無上の光榮が吉水の傳燈を鷹陵の學舎に誇る吾等京都佛教專門學校にも傳達され、その中でも不肖私、一行十名の中の一人として全校三百の青年佛教徒より選拔されて、この御親閥に参加するの光榮に浴するこゝ、成りました。そのひさゝき私はたゞ無量の感激に暫し我を忘れ、眞劍なる鼓動が胸に高まり、自分達は學校の代表だ、否全淨土宗青年教徒の代表たる榮譽を擔つて輝く聖代の御盛儀に参加するのだ。かく考へて如何に今回の使命が重大であり、意義深きものであるかを痛感したのであります。

特に仕立てられた學生列車は無慮千名に及ぶ武裝姿凛々しい吾等學生々徒を乗せて一路帝都に向つて驀進しました。全校の鼓舞と激勵とを浴びた私達一行は勇む心を抑へて靜肅に、爽快に秩序を保ちつゝ一夜を明し、車中より眺むる黎明の富士は白雪を戴いて、恰も吾等の壯途を祝福するかの如く大空に聳え立つてゐました。

興奮と感激に眠られぬ一夜を帝都に明かした私達は、今日ぞ晴れの御親閲式であります。五月の空は碧く晴れて太陽燦々として輝き、正に畏くも尊き御親閲日和であります。平素の鍛錬を遺憾なく發揮するのは今日ぞばかり、近衛聯隊の營庭に集結し、執銃帶劍ゲートル姿、一分の隙なく軍装を整へ早くも式場に入り、午前九時各隊整列奉迎の位置につきひたすら御盛儀の開始を待ち奉りました。二重橋の奥深く拜する大内山は新緑の色一しほ濃く、玉砂利さへも今日の御盛儀に光輝を添へて居ります。見渡す一面の校旗紅、紫、白、みりぐの色に金、銀さまぐの校章を縫つて翻つて居り、竿頭には何れも壯麗なる御親閲拜受章が輝いて居ります。聴て午前十時靜かに響く「君が代」の喇叭、満場肅として聲なく、捧け銃の手に敬虔の誠は溢れ動くのであります。日本臣民にしてこの無比の森嚴な光景に目頭の熱くなるのおほえないものがありますか。折しも總指揮官の號令一下、勇壯なる分列式は開始されました。第一集團は終り、次いで吾等の第二集團であります。時は來ました。引きしまる精神の緊張を以て、銃をしつかみ擔ひ、神々しくも敷きつめられた玉砂利のすが／＼しさを步調高らかに踏んで、畏くも玉座の御前に近づくや「頭右！」の號令と同時に、私達は御英姿を咫尺の間に拜するこゝが出来たのであります。この一刹那の聖なる感激は全く言語に絶した熱涙の喜びであり、身體中がうち戰くほご榮譽の歡びでありました。かくて分列式を終るや、荒木文部大臣閣下の御發聲で天皇陛下萬歳を奉唱致しました。全員唱和の聲は全式場を壓し、更に廣く全國民に、更に又遠く戰線にまで響くやうな熱烈なる意氣に満ちて居りました。

式後玉座に盡忠報國の赤誠を捧け奉つた私達拜受部隊は隊伍堂々靖國神社へ進發しました。沿道の市民皆歡呼して迎へてくれる中を神前に參進、捧銃の敬禮を致し、皇軍の武運長久を祈願致しました。そして今回の曠古の御盛儀は全く終了し、私達の重大なりし使命を無事に果す事の出來ましたことに付いて特に深い感謝の意を表したのであります。こゝに特に銘記しなければならぬことは今回の御親閲に際し、畏くも陛下には青少年學徒に優渥なる勅語を下し賜ふ

たこゝであります。私達青年學徒は更に大御心に恐懼感激するに共に明日の日本を背負つて立つ大なる覺悟を懷き、聖恩の萬分の一に報ひ奉らねばなりません。

思ふに我が國現下の情勢は日に重大を加へ、東亞新秩序建設の大業は今後吾等青年學徒の双肩に懸つてゐるのであります。殊に將來淨土一宗を背負つて立つべき私達青年佛教徒はその任の極めて重きを感じるのであります。

今やこの御親闕に無上の光榮を擔つた吾等は、このこゝを深く心肝に刻して益々學校教練に精勵し、純正なる日本精神を發揚して時艱の克服に邁進し、以て叡慮に副ひ奉るべき確固たる覺悟を持たねばならぬと思ふのであります。